

顧問作品解説

bug parts

自分にしか撮れない、そういうテーマなり、被写体なりを持っている人は、それだけでアドバンテージがある。これだけの昆虫のコレクションを持つ人はきっと稀ではないか。

また、かくも美しい造形を昆虫たちが有していることは、このように見せてもらって初めて気づくものだ。優雅な触角、アボカドのような繭、虹色の外骨格、幾何学的な模様の羽根。見れば見るほど、人間の手では決して作ることができない領域と思える。

これだけの接写になると作品のクオリティは、ピントと背景、ライティングの善し悪しにかかってくる。何度も撮り直し、やっとできた作品である。作者の美意識が詰まった逸品だ。

